

友の会ニュース

2009 January No.5

次回展「椿昇 2004-2009 GOLD/WHITE/BLACK」

関西に拠点を置き、1980年代から現在まで美術と社会との関係を問い直す衝撃的な作品を発表し、日本の現代美術を代表する一人として世界的な注目を集めている美術家・椿昇（つばき・のぼる：1953年生、京都市立芸術大学卒）の最新作を紹介する展覧会です。

森村泰昌、宮島達男、ダムタイプ・シアターなど80年代に台頭した戦後世代の日本の美術家を紹介する歴史的な展覧会「アゲインスト・ネチャー」展（1989-90年に全米を巡回）に椿は、ポップで軽妙な外観の中に、人間に対する生物の根源的な悪意を感じさせる悪魔的な作品《フレッシュ・ガソリン》を発表し大きな注目を集めました。その後も1993年ヴェネチア・ビエンナーレ（アペルト部門）など海外での発表が続き、2001年の第1回横浜トリエンナーレではホテルの外壁に50mの巨大なバッタを登場させ、多くの人々を巻き込んだ議論を引き起こしました。その後も椿は、テクノロジーや、人間が創り上げたシステムと個人との関係を問い直す作品を通じて、日本や世界各地の人々と、過激で根源的な対話（ラディカル・ダイアログ）を続けています。

「対話」こそが、美術作品の制作を通じて椿が取り組んできた中心課題と言えます。今回の展覧会でも、様々な議論を巻き起こすために椿はあえて、世界の現実でありながら私たちが眼を逸らしてきた幾つかのタブー（日本の核武装の可能性、パレスチナの状況、多国籍企業の世界支配）を作品の形で提示します。椿はこれらの問題に対し、党派的な解決案を提案しているのではありません。椿が提案するのは過激なほど率直な「対話」であり、この過激な対話なしには、私たちの明日の平和は築き得ないというメッセージなのです。

* 謹賀新年 *

本年もどうぞよろしくお願いたします。

●友の会会員の特典

ギャラリー・トーク+講演会

2009年2月28日（土）

- 12:30-13:10、3階・企画展示室
特典：アーティストによるギャラリー・トーク
※一般の方も一部ご参加いただけます。
- 14:00-15:30、1階・講演室
①講演会 萩原樹徳（ナチュラリスト）
（聞き手：椿昇）
※優先的に席をご用意いたします。

定員各20名・予約可能・先着順、無料（友の会会員と同伴者1名）

申込み切：2009年2月19日（木）

申込先：京都国立近代美術館 庶務課庶務係
075-761-4111（代）（平日9:30~17:00）

※当日は12:20に1階・インフォメーションに集合してください。

連続講演会「ラディカル・ダイアログ」（聞き手：椿昇）

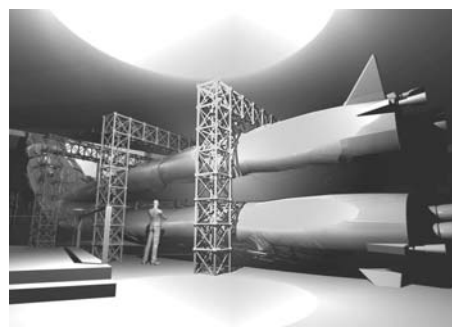
- ①上記講演会
- ②3月7日（土）14:00-15:30
郡司ベギオ幸夫（神戸大学理学部 地球惑星科学科教授）
+ 銅金裕司（メディア・アーティスト）
- ③3月21日（土）11:00-12:30
山浦玄嗣（医学博士、『ケセン語訳聖書』著者）
- ④3月21日（土）14:00-15:30
五十嵐太郎（建築史・建築批評家）
- ⑤3月28日（土）14:00-15:30
遠藤秀紀（解剖学、東京大学総合研究博物館教授）
- ⑥3月28日（土）時間未定
イワン・ブピレフ（工学博士、Sony CSL 研究員）

①-⑥ 京都国立近代美術館1階・講演室

⑤-⑥ 京都国立近代美術館1階・ロビー

いずれも聴講無料、先着100名（開始時刻の1時間前より受付にて整理券を配布します。）

※その他の関連イベントについては当館ホームページをご覧ください。URL: <http://www.momak.go.jp>



(上) 椿昇+室井尚《インセクト・ワールド、飛蝗》(2001)
(下) 《mushroom》(2009)展示参考図

京都学「前衛都市・ モダニズムの京都」

すでにこの「友の会ニュース」でもお伝えしていますように、京都新聞創刊 130 年の記念展覧会について、より深く知っていただこうと「友の会」会員の方々のために、6 月の開幕まで様々な関連行事を企画しています。今回は、本展覧会の起点ともなっている岡崎公園で開かれた「第 4 回内国勸業博覧会」のゆかりの史蹟をめぐる。そして平安神宮にて、禰宜の赤木尊文氏から、「平安神宮創建と時代祭のあゆみ」ほかのレジメが配布され、京都の近代化にいかん平安神宮の建立が深くかかわっているかということについて、懇切丁寧な解説をいただきました。

本展では、このような京都の近代都市化の歩みとともに、特に新聞の発行が文化を支える基盤となっていたことを「ジャーナリズムと美術」という視点などでもふりかえりますが、いうまでもなく展覧会の中心を形成する美術作品の紹介においても、名作を数多く加えることができるよう努力しています。なかでも朗報は、東京国立博物館が所蔵する重要文化財の黒田清輝の《舞妓》(1893 年)の出品と、竹内栖鳳の《平安神宮・円山公園》(1896 年)の出品が決定したことでしょう。

黒田は周知のとおり、東京美術学校西洋画科教授として、わが国の洋画の普及に大きな役割を果たしましたが、フランスで本格的な洋画を学んで帰国した後、すぐに京都で活動を続け、住友吉左衛門を後援者に、「パリ＝京都」の感性を融合したかのような京都ゆかりの作品を制作し、京都の風土こそが、その後の創作に決定的な影響を与えたといっても過言ではありません。黒田が東京美術学校講師となり、わが国の西洋画の指導者として白馬会を結成するのは、内国勸業博覧会の翌年(1896 年)のことでした。まさに《舞妓》の作品は、黒田の洋画家としての助走期に位置する重要作といえるでしょう。一方、栖鳳の《平安神宮・円山公園》は、これまで栖鳳展にさえ出品されたことのない幻の大作で、本展覧会のなかで、はじめて作品の価値が再認識されるものと期待しています。さらに、「第 4 回内国勸業博覧会」には、上洛以前の

若き浅井忠も、戦争画の問題作《旅順戦後の探索》(1895 年)を出品しましたが、本展覧会でも、あらためてこの作品が描かれた時代状況に思いをめぐらせていただきたいものです。浅井の個展では、うっかり見過ごされてしまいがちな歴史的側面が、鮮やかにクローズアップされるはずで

す。
こうした興味深い様々な美術史上の出来事を、あらためて「京都」という風土とのかかわりから光をあて、展覧会導入へのご案内になればと思っています。

●友の会主催 展覧会関連 連続企画

第 1 回「京都学」セミナー

3 月 28 日(土)14:00～15:30

当館会議室(当日ご案内いたします。)

定員 10 名:要申込・先着順、無料(友の会会員と同伴者 1 名)

申込〆切:2009 年 3 月 19 日(木)

申込先:京都国立近代美術館 庶務課庶務係

075-761-4111(代)(平日 9:30～17:00)

※当日は 13:50 に 1 階・インフォメーションに集合してください。会場のご案内いたします。



黒田清輝《舞妓》1893 年
東京国立博物館蔵 重要文化財



第 1 回京都学見学会

(上左)平安神宮前で主任研究員の解説を聞く参加者の皆さん
(上右)平安神宮禰宜の赤木氏による解説会の様子
(下右)赤木氏の案内で平安神宮中庭(神苑)を散策

友の会会員募集中!

詳しくは当館ホームページをご覧ください。

URL: <http://www.momak.go.jp>